

第4章 特別活動

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、中学校学習指導要領及び埼玉県中学校教育課程編成要領の趣旨を踏まえ、指導計画例、活動内容とその展開例等で構成し、随所に指導する上での留意点や学級経営上の配慮点を加え、各内容を関連的に活用できるように作成した。

各内容で取り上げた展開例は、基礎的・基本的とし、特別活動の各内容の目標をより具現化できるようにした。特に、学習指導要領の改訂に伴い、重視された内容については、具体的な事例をできるだけ詳細に取り上げた。特に配慮した点としては、言語活動や体験活動、道徳の指導との関連を明らかにし、学習指導要領改訂のポイントを強調した。

(1) 学級活動

「(1)学級や学校の生活づくり」に重点を置くとともに、「(2)適応と成長及び健康安全」及び「(3)学業と進路」、それぞれの展開例を示して、生徒の自主的、実践的な活動を助長し、明るく楽しい学校・学級生活を送るための指導が行われるようにする。

(2) 生徒会活動

「生徒会の計画や運営」「異年齢集団による交流」に関する活動を指導計画に適切に位置付け、学校生活の改善・向上を目指すとする生徒による自主的、実践的な活動を助長する指導が行なわれるようにする。

(3) 学校行事

「家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫し、体験的な活動を充実させて、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、集団や社会の一員として、よりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度が育成する指導が行われるようにする。

2 取り上げた内容

「指導計画作成のための資料」では、学級活動、生徒会活動、学校行事の3内容について、次のような内容を取り上げた。

(1) 学級活動

「(1)学級や学校の生活づくり」では、生徒の自発的、自治的な活動が一層高まるように、学級活動委員会の指導の手順等を示した指導計画例を取り上げた。「(2)適応と成長及び健康安全」では、新たに加わった「望ましい人間関係の確立」の展開例を取り上げた。「(3)学業と進路」では、「望ましい勤労観・職業観の形成」の展開例を取り上げた。いずれの展開例においても、指導案作成時の留意事項や工夫すべき点などを吹き出し等で具体的に説明した。

(2) 生徒会活動

すべての中学校で実施されている「生徒総会」を取り上げた。生徒総会実施に当たって、学級活動との関連を図り、生徒の問題意識を高め、よりよい校風づくりに寄与しようとする態度を育成できる事例を取り上げた。また、各種の委員会活動として「広報委員会」の常時活動と定例の活動を取り上げた。委員会活動が学校生活の改善・向上に大きな役割を果たすという点に着目し、委員会活動を通して学校生活の問題点を発見し、その解決に向けて他の委員会と連携を図りながらその活動を充実させていく展開例を示した。いずれの展開例においても、学級活動と同様、吹き出し等を用いて指導の工夫や活動の発展のさせ方等を説明した。

(3) 学校行事

5種類の行事のうち、文化的行事では「文化祭」、勤労生産・奉仕的行事で、「職場体験」を取り上げた。改訂前の学芸的行事から文化的行事に名称を変更した趣旨を押さえ、本物の文化・芸術に触れ、情操を高め、豊かな教養の育成に資するとともに、よりよい文化を継承しようとする態度をはぐくむ展開例とした。また、勤労生産・奉仕的行事では、公共の精神を養うとともに、人間としてのよりよい生き方を自覚させる道徳性の育成ともかかわらせる展開例とした。

3 実践化への配慮事項

各学校は生徒と地域の実態に応じて、特別活動の各内容の特質を生かした指導計画を作成し、各学校にふさわしい活動を展開するようにする。そのため、本資料の活用に当たっては、特別活動の各内容の特質を十分理解した上で教育課程編成要領と併用しながら、指導計画を立案し、実践することが大切である。

第2 指導計画作成のための資料

1 学級活動の指導計画

(1) 学級活動の指導計画例【資料1】

活動の流れ	活動の過程	学級や学校としての問題や課題	共通した個人的な問題や課題
		主としてみんなで決定して、みんなで取り組む活動 主として内容(1)「学級や学校の生活づくり」	主として自分で決定し、自分で取り組む活動 主として内容(2)「適応と成長及び健康安全」 内容(3)「学業と進路」
	事前の活動	(1) 問題や課題の発見・収集 学級意見箱、生活ノート、個人ノート、学級日誌、朝の会や帰りの会での話し合いや反省、係活動や当番活動の活動内容や反省、教師の投げかけ等 ※学級活動委員会を活用する。	(1) 問題や課題の発見 学級活動年間指導計画、生活ノート、個人ノート、教育相談、日常の観察等 ※学級活動委員会を活用することも考えられる。
		(2) 活動計画の立案 ・議題案について話し合い、議題を選定する。 ・提案理由や話し合いの柱を検討する。 ・事前の調査や活動を行う。 ・資料を作成する。 ・役割を分担する。等	(2) 指導（活動）計画の立案 ・題材や活動テーマを決定する。 ・指導（活動）の展開を検討する。 ・事前の調査や活動を行う。 ・資料を作成する。 ・役割を分担する。等
	本時の活動	(3) 集団討議による集団目標の集団決定 ① 議題を確認し役割を紹介する。 ② 提案理由を発表し活動テーマを確認する。 ・提案理由の発表は、資料等を用いて行う。 ③ 話し合い活動を行う。 ・それぞれの意見のよさを統合する。 ④ 話し合いの評価をする。 《 集団決定 》 みんなの意見の統合、みんなの総意による決定	(3) 集団思考による個人目標の自己決定 ① 問題の状況等を明確にする。 ② 共通した問題であること明確にする。 ③ 問題の原因を明らかにする。 ④ 集団思考により解決策を見出す。 ⑤ 実践方法を自己決定する。 ⑥ 実践意欲をもつようにする。 《 自己決定 》 みんなの意見を参考にし、自分に適した解決策や目標を決定
		(4) 集団での実践 ・具体的な実践計画を立てる。 ・全員で協力して集団としての実践活動を行う。 (5) 反省、評価 ・活動の成果や問題点を確認する。 ・新たな解決策、改善策を考える。	(4) 個人による実践 ・自己決定に基づいて一人一人が実践する。 ・反省、評価を繰り返しながら、一定期間実践する。 ・家庭との連携を図る。 (5) 反省、評価 ・活動の成果や問題点を確認する。 ・新たな解決策、改善策を考える。
事後の活動			

(2) 学級活動委員会の指導【資料2】

ア 学級活動委員会の意義と活動内容

ア 学級活動委員会の意義

学級活動委員会とは、話し合い活動の中で学級の一人一人から、問題解決に向けて多種多様な発言を引き出し、集団決定を行い、実践するまでの準備をする組織である。学級活動における話し合い活動を、生徒の自発的、自治的な活動とするために、学級の実態に即した学級活動委員会を設け、生徒一人一人が役割を分担し、活動計画を立てて実践する機会を豊富に用意する必要がある。

学習指導要領の学級活動の内容(1)「学級や学校の生活づくり」の内容例示に「学級内の組織づくりや仕事の分担処理」があることから、生徒が主体となって話し合い活動を展開できるように学級活動委員会の組織を充実させたい。ただし、活動のねらいを達成するために、あくまでも教師の適切な指導の下に活動できるようにすることが重要である。

(イ) 学級活動委員会の活動内容

学級の実態や年間指導計画に基づいた教師の適切な指導の下に、生徒主体の活動となる活動計画を作成することが、主な活動内容である。

活動項目	主な活動内容
1 問題の収集・整理	○意見箱、朝や帰りの会、日誌や生活ノート、係や当番、教師からなど、問題を収集し、整理する。
2 議題の選定	○議題の選定条件を考え、全員で出された問題の中から議題を選定する。 ○議題にならなかった問題についてもどのように扱うかを明確にし、提案者に知らせる。
3 話し合いの活動計画の作成	○提案理由の練り上げ、役割分担、目標・約束の確認、事前に決めておくことの確認、話し合いの柱の設定を行う。
4 提案資料等の準備	○提案事項、提案理由を書いた用紙や、話し合いの流れを書いたカードを準備する。 ○事前のアンケートの集計結果や調査活動の結果などを提示するための資料を準備する。
5 活動計画の発表	○活動テーマや話し合いの柱などを学級全体に知らせ、一人一人の事前の意見をカード等に記入できるようにする。 ○記入されたカードを参考に話し合いの流れを予想しておく。
6 本時の活動の運営と評価	○活動計画に沿って、役割ごとに話し合いを進行する。 ○提案理由を考えた話し合いになっていた等、運営についての評価をする。
7 実践とまとめ	○学級全員で協力して準備、実践ができるように朝や帰りの会等で呼びかける。 ○活動全体を通しての評価を行い、次の活動に役立てる。

イ 学級活動委員会の指導上の留意点

(ア) 学級活動委員会の構成

司会グループは4～5名で編成(司会1名、副司会1名、黒板記録2名、ノート記録1名等)すると一人一人の役割が明確になる。できる限り輪番制にし、多くの生徒が運営の仕方を学べるようにする。輪番制にすることで集団の一員としての自覚が深まり、助け合い、支え合う雰囲気を醸成できる。

(イ) 議題の選定にあたっての留意点

○以下のような条件を満たした議題を選定できるように指導、助言していく。

a 学級として興味・関心が高い問題	b 学級生活の充実・向上に直結する問題	c 学級の共通の課題と認識されている問題
d 自分たちの力で解決できる問題	e 解決を後回しにはできない問題	f 生徒会活動から要請を受けた問題

○学校行事や生徒会活動と関連する議題は、内容によって異年齢集団活動に発展させることができる。

- ・縦割りで学校行事に取り組んだ反省会として「○組合同集会のプログラムを決めよう」
- ・3年生を送る会に向けて「アトラクションの計画を考えよう」

○生徒による自治的範囲をこえる内容については、教師が視点を明確にしておき、具体的な事例を用いて指導していくように配慮する。

《生徒の自治的な活動の範囲を超える内容例》	a 友達を傷つけるような結果が予想される問題	b 教育課程の変更に関する問題
c 校内のきまりや施設、設備の利用やその変更に関する問題	d 金銭の徴収に関する問題	e 健康や安全に関する問題 等

(ウ) 活動計画の作成(活動計画の立案等、事前準備の段階)

○学級活動委員と提案者及び教師で活動の計画を立てる。

○活動計画を立案する際には、話し合いの内容と順序を明確にし時間のめやすや話し合いを進行する際に気をつけることを確認しておくように指導する。

○提案理由は、話し合いの重要な判断材料となるものなので、問題の所在が明確になるような資料を作成できるように配慮する。

○提案理由の中には、話し合いで深めたい道徳的価値につながるキーワードを設定しておく。

(3) 話し合い活動の指導上の留意点【資料3】

○なぜ、話し合うのか、問題の所在が明確になるように、提案理由を詳しく説明できるようにする。

○意見が話し合いの中心からそれた場合や、決定の判断が難しい場合などは、提案理由に立ち返り、意見の修正やよりよい意見の選択ができるよう話し合いの方向性を教師が示唆する。ただし教師が決定を方向付けるような指示的な助言は避け、あくまでも生徒の意思による集団決定ができるようにする。

○提案理由の中の道徳的価値につながるキーワードについて話し合いが深められるよう、状況に応じて助言し、道徳的実践の場となるようにする。

○複数の意見のよさを統合し、折り合いをつけた集団決定を心がけさせることで人間関係を形成する力を育成するとともに、言語活動の充実を図る。やむを得ず多数決をとる場合は十分に話し合いを深めた上で、多数決の約束に則って行なえるようにする。

○教師の話では、学級活動委員へのねぎらいや、活動の見通しができるような助言、活動意欲を高め自治的に創意工夫した活動ができる助言に心がける。また、折り合いにつながる発言や道徳的価値を深めることにつながる発言も賞賛する。

(4) 1 単位時間の指導計画

ア 内容「(1)のア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」の指導計画例【資料4】

第〇年〇組 学級活動指導案

1 議題 体育祭に向けての活動計画を考えよう

内容(1)学級や学校の生活づくり ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

「議題」記述のポイント
 ○年間指導計画の議題とともに、学習指導要領との整合性も明記する。
 ○内容が複数になる場合は最も意図しているものを明記する。

2 議題選定の理由

本学級では「1年間全員が毎日笑顔で過ごせる学級」を合言葉に、様々な活動に取り組んできている。これまで「修学旅行でのアトラクションを成功させよう」「1学期の学級レクを決めよう」などの議題で話し合い活動を積極的に進めてきた。その中で、係活動、集会活動、学校行事などに積極的に取り組み、「私たちの学級」という意識を高めてきた。また、修学旅行への取組においては学年の一員、学校の一員としての自覚も深まってきている。

このような取組を通して、「自分たちで活動目標を考え、活動計画を立案し、実践する」といった姿勢が身に付いてきている。また、多くの生徒が学級や学年の仲間のことを思いやる気持ちをもつようになり、支え合う雰囲気が生まれている。

しかし、学年のことを考えられるようになってきてはいるものの、学期末の球技大会においては競争心の高まりにより、学級中心の考えに陥るような面も見られた。また、生徒総会などにおいては、3年生として、1・2年生をリードしようとする意識が低く、学校全体の向上を図ろうとする活動に積極的に取り組む生徒が、生徒会本部役員など、一部の生徒に限られてしまう傾向がある。

本実践では、体育祭の活動目標を決めたり、活動内容を考えたりする話し合いの活動を通して、学級全員の気持ちや考えをわかり合う態度を育成していきたい。また、3年生として1・2年生をリードし体育祭を成功させることで、学校全体の向上を目指す態度も身に付けさせたい。その中で、互いに切磋琢磨し、成長し合おうとする態度も育成できると考え、本議題を選定した。

「議題選定の理由」記述のポイント
 ○目指す生徒の姿、学級の姿の実現に向けてのこれまでの取組
 ○これまでの取組の成果と課題
 ○特に成長した部分を明確にしたうえで導き出した今後の課題
 ○育てたい態度や能力、課題の解決のための手立て

3 指導のねらい

- (1) 互いに切磋琢磨し、成長し合おうとするよりよい人間関係を形成する力を育成する。
- (2) 3年生として、後輩を思いやり学校の一員として体育祭を成功させようとする態度を育成する。

「指導のねらい」記述のポイント
 ○1つにつき2行以内、2項目が目安
 ○教師がねらっている内容なので、生徒主体でなく教師の言葉とする。
 ○道徳的実践の観点から、育てたい力や態度を明確にして記述する。

4 展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

日時	活動の場	活動の主体	活動の内容	指導上の留意点
○日(□)	放課後	学級活動委員会	・体育祭の実施要項をもとに活動内容を確認する。また、体育祭実行委員からの提案理由を見直し、話し合いの議題と活動テーマを考える。	・体育祭の実施の目標をもとに議題や活動テーマを考えられるようにする。
○日(□)	帰りの会	学級全体	・体育祭の概要を確認し、議題と提案理由をもとに一人一人が、学級としてどんな体育祭にしたいかを考え、アンケートに記入する。	・提案理由の「3年生として」や「誇り」という言葉を意識して考えられるように助言する。
○日(□)	放課後	学級活動委員会	・話し合いの柱を考え役割を分担する。また、アンケートの中からキーワードを整理し話し合いの資料を作成する。	・話し合いの柱は、話し合いの展開を予測して考えられるようにする。また、キーワードは全員の意見を生かして整理できるようにする。
○日(□)	帰りの会	学級全体	・話し合いの柱と整理したキーワードを確認し、自分の考えを学級活動ノートにまとめておく。	・自分の意見をもつとともにその根拠を明確にしておくよう助言する。
○日(□)	放課後	学級活動委員会	・話し合いの進め方を確認する。	・話し合いが滞ったとき、決め方に困ったときなどを想定し、どう対処するかを助言する。

「事前の指導と生徒の活動」記述のポイント
 ○日を追った活動の流れを具体的に表記する。
 ○手立てとなる指導上のポイントを明確に記述する。

(2) 本時の活動テーマ

「後輩に誇れる3年生らしい体育祭にしよう」

(3) 本時のねらい

- 学校の一員としての自覚を深め、体育祭を成功させようとする態度を育成する。
- 友だちの意見を参考にし、活動の目標や練習内容を考えられるようにする。

「本時の活動テーマ」記述のポイント
 ○提案理由を要約した内容を書く。
 ○学級活動委員との話し合いを通し、生徒の言葉で表現する。

(4) 本議題における具体的な評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
体育祭に向けての目標や活動計画づくりに関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割を自覚し、他の生徒の意見を参考にしながら、考え、判断している。	体育祭の目標、活動計画を作成する方法や学級内の仕事を分担処理する方法などを身につけている。	体育祭の目標、活動計画づくりの方法や取り組む上での諸問題の解決方法を理解している。

(5) 本時の活動

	活動の内容	指導上の留意点	評価の観点	資料等
活動の開始	1 開会のことば 2 学級活動委員の紹介 3 議題の発表 4 提案理由の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な話し合いを促す呼びかけができるようにする。 ・一人一人が進行上の目標を発表できるようにする。 ・アンケートの集計結果をもとに、充実した体育祭にしたいという思いを伝えられるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の話し合いの意義や目標を理解し、進んで活動しようとしている。 【関心・意欲・態度】【観察法】 	アンケート集計資料
	<p>【提案理由】 私たち3年生にとっては最後の体育祭を迎えることになりました。これまでの活動の成果を発揮し、後輩たちに誇れる体育祭にしたいと思います。そのためにも体育祭に向け、3年生らしく学校全体のことを考え活動に取り組んでいく必要があると思います。そこで、学級としての活動目標と練習や当日の活動についての約束を決めることが大切だと思い提案しました。</p>			
活動の展開	5 話し合い ① 活動目標を決めよう ② 練習内容を決めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・司会は、話し合いが常にねらいから外れないよう指導しておく。 ・「3年生らしい体育祭」になるような観点で話し合えるようにする。 ・キーワードをもとに、学級の活動目標を考えられるようにする。 ・それぞれの意見のよさを踏まえて、発言できるよう助言する。 ・よい部分を統合させながら意見をまとめられるようにする。 ・1,2年生のときの体育祭の取組を思い出して、意見を出せるようにする。 ・提案理由にある「3年生らしい」の意味を考えるよう助言する。 ・「成長し合おう」という体育祭の目標の意味を考えるよう助言する。 ・要約してはっきり伝えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の一員として体育祭を成功させようという視点で判断している。 【思考・判断】【観察法】 ・自分と異なる意見のよさを認めながら話し合いを進めることができる。 【技能・表現】【観察法・自己評価法】 	学級活動ノート 活動目標作成用資料
	6 話し合いの結果発表	<ul style="list-style-type: none"> ・要約してはっきり伝えるようにする。 		
活動のまとめ	7 自己評価カードの記入	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの反省や、今後の取組について記入できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで決まったことをもとに、目標を達成するために積極的に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】【観察法・自己評価法】 	自己評価カード
	8 感想発表	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードに記入した内容を発表させる。 		
	9 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを高めた意見を紹介する。 ・提案理由やテーマに合った意見を認め、紹介する。 ・学級活動委員の活動を賞賛する。 		
	10 閉会のことば	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭に向けての積極的な活動を呼びかけられるようにする。 		

(6) 本時の評価

- ア 学校の一員としての自覚を深め、体育祭を成功させようとしている。
- イ 友達の意見を参考にし、活動の目標や練習内容を考えている。

「本時の活動」記述のポイント

- 「活動内容」の文末は体言止めとする。
- 集団決定の場を必ず入れる
- 「指導上の留意点」は教師主体の言葉とする。

「評価の観点」記述のポイント

- 評価の観点と評価をする上での視点を記入する。
- 視点の文末は「～ている。」とする。
- 個と集団に対しての評価の視点をもつ。

(7) 事後の指導と生徒の活動

月 日	活動の場	活動の主体	活動の内容	指導上の留意点
○月○日	帰りの会	学級全体	個人の目標と活動の計画を作成する。	これまでの学校行事などへの取組の評価を活用させる。
○月○日	放課後	実行委員会	練習の詳細な活動内容や日程について検討する。また、練習を進める上での役割を明確にする。	話し合った内容をもとに、計画を立てるようにする。学級の一人一人が役割をもてるようにする。
○月○日 ～ ○月○日	練習時間	学級全体	競技別練習と学級の全体練習の時間を分けて練習する。定期的に評価をし、取り組み方等について改善を図る。	実行委員会が中心となって進行するようにする。合同練習のときは、下級生に対してアドバイスをすることで自分たちの向上につながるようにする。
○月○日	体育祭	学級全体	学級全員で力を合わせて、各競技を行う。	体育祭実行委員会を中心にアドバイスし合うようにする。

(5) 内容「(2)のオ 望ましい人間関係の確立」の指導計画例【資料5】

第○学年○組 学級活動指導案

1 題材 「望ましい人間関係の在り方」

題材設定をするヒント：○担任や教科担任の授業中の観察

○担任の生徒面談

○学級日誌等からの課題の把握

○学級活動委員会への働きかけ等

2 題材設定の理由

生徒は、学級・学校生活での仲間とのかかわりを通して、集団の中での所属感や達成感を実感することができる。それは、生徒同士のよりよい人間関係が築かれることが基盤となって実現される。なかなか解決されないいじめや不登校、ひきこもり等の問題は、人間関係の希薄さが一因とされている。今回、学習指導要領の改訂において、特別活動では、「よりよい人間関係を築く力」の育成を重視する観点から、目標や内容が見直された。「望ましい集団活動をとおして」を特質・方法原理とする特別活動では、まさに、望ましい人間関係の下で自主的、実践的な態度がはぐまれる。

現在、学級は進級から2カ月が過ぎ、全体としては、授業態度はまじめであり、元気なあいさつが交わされている。その一方で、授業や係活動、当番活動への取組にいくつかの課題も見えてきた。特に、当番活動に取り組むグループ内でよりよい人間関係が築かれず、協力・協同の場が少なくなってきたことが大きな課題と考える。また、学級内で思いやりにかかる言葉遣いも交わされるようになってきた。

そこで、学級の仲間を大切にすることをめぐり、正義と連帯感で結ばれたよりよい人間関係を築き、毎日登校したくなる明るく楽しい学級をめざすために本題材を設定した。

「題材設定の理由」の記述ポイント

○本題材がどのような意味をもっているのか。

○今までの成果と最近の課題は何か。

○生徒の実態を受け、育てたい態度、資質、能力は何か。

○実態の問題点だけでなく、よい点は何か。

他とのかかわりを通して自己を高めるなど、道徳的実践の場としてのねらいも明確にしておく。

3 指導のねらい

(1) 望ましい人間関係を築くことにより明るく楽しい学級生活が実現できることを自覚できるようにする。

(2) 望ましい人間関係を築くために、日々のあいさつ、言葉づかい、当番活動等を充実させようとする意欲を育てる。

4 展開の過程

(1) 事前の活動と生徒の活動

日時	活動の場	活動の主体	活動の内容	指導上の留意点
○月○日	帰りの会	学級全体	学級生活を充実させる大切な要因をいくつか出し合う。	・仲間への批判、中傷とならないよう、原理・原則に基づいて考えさせ、望ましい人間関係を取り上げる。
○月○日	放課後	学級活動委員会	学級の人間関係に係るアンケート調査項目を作成する。(※1)	・日常の学級生活での気がかりな点に着目させ、課題意識を高めるようにする。
○月○日	帰りの会	学級全体	「学級活動委員会」の担当がアンケート調査を実施する。	・学級生活の改善向上を目指すための調査であることを認識できるようにする。
○月○日	放課後	学級活動委員会	・アンケート調査の集計・分析を行うとともに、活動テーマを決定し、進行の確認と役割分担を行う。	・課題解決の手立てを考えておくよう指示する。 ・話し合い→発表→自分の取組決定の手順を理解できるように、補足する。
○月○日	帰りの会	学級全体	「学級活動委員会」の担当が、当日の学活の流れを説明する。	・あらかじめ「望ましい人間関係とは何か」について考えておくよう指示する。

アンケート調査の結果は、グラフや表などにまとめる。その場合、文字の大きさ、色に配慮し、わかりやすさを優先する。

教師の指導の下、当日の司会、記録、提案等の担当者が進行計画表を作成し、見通しを立てておく。

(※1) アンケート調査 「学級の温かさを調査します！」

- <項目> ・温かな言葉って何ですか。 ・温かな言葉をどんな時使っていますか。
 ・毎日、クラスの人とあいさつを交わしていますか。 ・あいさつを薬に例えるとどんな薬ですか。
 ・あなたは、クラスの友達を称えたことがありますか。また、それはどんな時ですか。
 ・クラスの間で人間関係で気になることはありますか。(あると答えた場合は)何が気になりますか。
 ・クラスの間で人間関係良好度は百点満点中何点ですか。また、その採点の理由は。

(2) 本時の活動テーマ

「よりよい人間関係をつくって、明るく楽しい学級を目指そう」

(3) 本時のねらい

望ましい人間関係を築くために、学級の構成員一人一人が取り組んでいかなければならないことを考え、学級としての実践事項及び個人の実践事項を決定する。

(4) 本題材における具体的な評価基準 (略)

活動テーマを決定するポイント

○学級の実態把握(アンケート調査、生徒の意見等)

○学級活動委員会での話し合い→学級への提案 ※1題材から複数

○担任、生徒の思いや願いを反映させた文言づくり の活動テーマも

○当日の活動が見通せる文言づくり 考えられる。

(5) 本時の展開

	活動の内容	指導上の留意点	評価の観点	資料等
活動の開始	1 学級活動委員会によるアンケート調査集計結果の発表 2 先生の話	・学級活動委員会の代表がアンケート調査による「今の学級の間人間関係良好度」の点数を発表することで、解決すべき課題への関心を高める。 ・本活動テーマで話し合う理由を代表生徒が発表するとともに、担任も本活動の意義を説明し、活動意欲を高める。	・本時の活動への参加意欲が高まっている。 (関心・意欲・態度) 【観察法】	アンケート集計(グラフ)
活動の展開	3 明るく楽しい学級づくりにおいて望ましい人間関係が大切である理由についての発表 4 望ましい人間関係はどのように築かれていくかの話し合いとその内容の発表 ・認め合える、称賛できる関係 5 望ましい人間関係を築くために、日々取り組んでいかなければならないことについての話し合いと発表 (例)・あいさつ→承認→絆 ・言葉遣い→思いやり→絆 ・役割遂行→称賛→絆	・日常の学級生活を見つめ、問題点を押さえながら、事前に考えておいた望ましい人間関係の在り方についての考えをより深めて、意見交換ができるようにする。 ・連帯感、所属感を大切にできる学級を目指せるようにする。 ・行動に示すことの大切さを一日の学級及び学校生活の流れにしたがって考えられるようにする。 ・現実の生活を見つめさせ、そこでの矛盾、不安等といった生活感情を生かしながら問題の解決に当たれる生活意欲の育成を重視する。 ・話し合いにおいては、互いの表情、態度、会話などが大切であり、よりかかわり合うことで、互いのよさに気付ける、ということがわかるような助言を行う。 ・学級目標に立ち返った取組が考えられるようにする。 ・司会の進行で質疑応答ができるようにする。	・日常の学級生活のよい点や改善点を明らかにできる。 (技能・表現)【観察法】	
活動のまとめ	6 努力事項の決定 自己決定の場面 ○感想や振り返りで終わるのではなく、「自分は、こんな実践をしたい!」「こんな選択をしたい!」など、自らの生き方にかかわる一場面とする。 7 先生の話	・生徒一人一人が自分として取り組むことを決定できるように助言する。 ・体裁のよい文言づくりに終始しないようにする。 ・実践した内容を見届ける方法について考えられるように示唆する。 ・机間指導の中で、学級(集団)への連帯感、所属感が深まるような取組となるよう個別に助言する。 自己決定での留意点 ○事後の活動を見据えて、いつ、何を、どのように取り組んでいくかなどを明らかにする。 ○抽象的ではなく、より具体的な内容とする。 ・担任の思いや願いを伝えるとともに、どのように実践の見届けを行っていくかを明らかにする。	・明るく楽しい学級づくりのために、生徒一人一人が取り組むべきことを決定することができる。 (関心・意欲・態度) 【観察法】【自己評価法】	カード

望ましい人間関係づくりのポイント
 ○現実の生活を直視→学級の実態把握→生徒の不安、怒り、正義感等の受け止め→生活感情を生かして学級の向上を図る。
 ○現実の生活と直結させ、問題解決を促す社会的スキルを話し合い活動を通して身に付けるようにする。

言語活動の充実の視点
 ○話し合い活動をとおして、互いに納得し合える表現を身につける。

話し合い活動の意義
 ○折り合いをつけることで、仲間意識や連帯感などの社会性をはぐくむ。

観点の記載
 ○4つの評価の観点を網羅するのではなく、重点化を図る

(6) 本時の評価

- ア 望ましい人間関係が明るく楽しい学級づくりには必要不可欠であることを理解している。
- イ 望ましい人間関係を築くための取組について、自分の意見を進んで述べることができる。

(7) 事後の指導と生徒の活動

- ア 本時で話し合って決定した自分の取組をカードに記入し、それらを学級内に掲示して、実践への意欲を高める。
- イ 帰りの会等で望ましい人間関係をつくるための「○○学級・3つの約束」を決定し、学級への連帯感、所属感を深めるようにする。
- ウ 学級日誌や生活ノート(生徒の生活状況を把握する)等で、学級内の人間関係の状況を把握する。

自己決定の見届け
 ○本時の自己決定を事後の生徒の活動において、評価していく。
 ○自己決定→事後の実践→個人の成長→集団としての成長→学級のさらなる向上を目指す

ウ 内容「(3)のエ 望ましい勤労観・職業観の形成」の指導計画例 【資料6】

第1学年○組 学級活動指導案

1 題材 身近な人の職業

内容(3)学業と進路 エ 望ましい勤労観・職業観の形成

2 題材設定の理由

3月まで小学生だった生徒が、4月より中学校という新しい環境に入る。アンケートによると、「中学校は怖い」「先輩が怖い」など様々な不安を抱えている実態がある。いわゆる中1ギャップによる学校不適応への対応は、ガイダンスの機能を充実させ十分配慮する必要がある。そこで、1学期には「将来の夢と希望」について発表し合い、職業や働くことへの関心を高める中で、人間関係やコミュニケーション能力を培ってきた。また、道徳の時間とも関連させながら共通する内容については、積極的に学年全体で取り組んだ。ところで、生徒は「進路」を卒業時の進路選択ととらえがちである。将来どんな職業に就き、どんな働き方をするかなど、具体的に考えている生徒はほとんどいない。社会においても、勤労や職業に対する理解の不足や安易な考え方など、若者の勤労観・職業観の未成熟さが指摘されている。それだけに、望ましい勤労観・職業観をはぐくむことは、進路指導、さらにはキャリア教育にとっても重要な課題である。このような課題を踏まえて、新しい環境の中で豊かな人間関係を築きながら、様々な社会的役割や職業及び職業生活について理解するとともに、人は何のために働くのか、なぜ働かなければならないのかを考え、将来、社会人、職業人として自立し、生きがいのある人生を築こうとする意欲・態度の育成を図る。

「ガイダンスの機能の充実とは」

生徒の学級・学校生活への適応や望ましい人間関係の形成、学業や進路等における主体的な取組や選択及び自己の生き方などに関して、学校が計画的・組織的に行う情報提供や案内、説明及びそれらに基づいて行われる学習や活動のこと。

「指導のねらい」記述のポイント

事前から事後に至るまでの一連の指導のねらいを端的に記述する。

3 指導のねらい

- (1) 身近な人々の仕事を調査、発表し働く意義や尊さを考えさせる。
- (2) 働くことの楽しさや厳しさを知り、勤労や職業についての関心・意欲を高める。
- (3) 人は、勤労や職業を通じて自己の能力や適性を生かし社会の一員としての役割を果たしていることを理解させる。

4 展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

(GT：ゲストティーチャーの略)

月 日	活動の場	活動の主体	活動の内容	指導上の留意点
7月○日	放課後	学級活動委員会	・身近な人の職業調べ用紙を作成する。 ・調査内容や調査方法について検討する。	・役割分担や計画を作成する。 ・個人情報に留意させる。
7月○日	帰りの会	学級全体	・調べてみたい職業について考える。 ・「職業調べ新聞」の内容について説明する。	・家庭でも話題にさせ、意識を高める。 ・地域の協力を得よう指導する。
7月 ～8月	夏季休業日	学級全体	・訪問先への依頼文を作成して持参する。 ・インタビューをワークシートに記入する。 ・「職業調べ新聞」を作成する。	・学級通信に家庭や訪問先へのお願いを掲載する。 ・質問内容やマナーの指導をする。
9月○日	放課後	学級活動委員会	・発表の仕方や話合いの内容を検討する。 ・「職業調べ新聞」を回収し、冊子を作成する。	・職業ごとに分けて印刷する。 ・各グループから1名を決定するよう指導する。
9月○日	帰りの会	学級全体	・働く意義などの考えを短冊に記入する。	・全員が記入できるよう指導する。
10月○日	放課後	教師とGT	・GTと司会者との打ち合わせ。	・指導の目的を理解していただく。
		学級活動委員会	・司会者と打ち合わせ及びリハーサル。	・円滑に運営ができるようにさせる。

(2) 本時の活動テーマ

「人は何のために働くのか考えよう！」

(3) 本時のねらい

- ア ゲストティーチャーや生徒の発表・話合いを通して、社会の一員としての理解を深める。
- イ 望ましい勤労観・職業観をもち、自己の能力・適性を発揮する主体的な態度を育成する。

(4) 本題材における具体的な評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
自己の生き方、働くことなどに関心をもち、意欲を持って自己のよさを発見し、伸ばそうとする。	自己の将来に夢を抱き、その実現に向けて将来の生活設計をし、今何を学ばなければならないかを考え、自ら判断している。	主体的に学び方を身に付け、学習や進路選択に必要な情報を収集、活用し、自己の個性や学習の成果を進路の選択に生かすことができる。	学ぶこと、働くことの意義、進路選択に必要な情報収集の仕方などを知り、自己の能力、適性などを理解している。

(5) 本時の展開

(GT：ゲストティーチャーの略)

	活動の内容	指導上の留意点	評価の観点	資料等
活動の開始	1 学級活動委員会の言葉 2 先生の話 (本時のテーマを知る) 3 GTを紹介	・座席をグループごとに配置して、話しやすい環境にする。 ・夏季休業中にインタビューした体験を思い出せるようにする。	・発言者の話を真剣に聞き、活動への意欲を喚起できる。 (関心・意欲・態度／観察法)	「職業調べ新聞」の冊子
活動の展開	4 短冊に記入した内容の話合い ①人は何のために働くのか ②働く意義や生きがいについて ③タイトルをつけ模造紙にまとめる。 5 パネルディスカッション 言語活動の充実の視点 記録、説明、論述、討論などの多様な活動を取り入れ、自他の考えを深めることで言語活動の充実を図る。	・取材した内容をわかりやすく短冊に記入したか確認する。 ・グループ長が司会者となり、互いの短冊を説明し、話合いで分類のタイトルを決定できるようにする。 ・各グループから発表者(1名)として、パネラーを決定できるようにする。 ・司会者が、時間を見ながら生徒を指名し、GTには質問や感想など発言しやすい雰囲気をつくるよう助言する。	・自分の意見や考えを正確に表現できる。 (技能・表現) 【自己評価法】 ・メモをしながら、静かに、話を聞くことができる。 (関心・意欲・態度) 【観察法】	ワークシート 模造紙 ワークシート
活動のまとめ	6 今後の努力事項の決定 7 先生の話	・GTへのお礼を述べられるようにする。 ・社会の一員として、自分の役割を自覚できるようにする。 ・考える時間を確保する。 「選択能力育成」のポイント 生徒に、自ら考え自ら判断する力を身に付けさせることが必要である。そのためには、自己決定の場を多く設定し、その経験を積み重ねていくことが大切である。	・将来への夢をさらに抱き、生活改善の意識を高める。 (思考・判断) 【自己評価法】	ワークシート

(6) 本時の評価

ア 話合い活動の中で、生徒一人一人が課題解決をすることができる。

イ 望ましい勤労感・職業観をもち、自己の能力・適性を生かそうとする主体的な態度を育成する。

※ 本事例における指導効果を高める工夫

1 ゲストティーチャーの活用

複数のGTに、グループごとにインタビューをすることで、発言しやすい雰囲気と多くの情報を知ることができる。

2 個人で思考・決定する場面の重視

短冊の発表を全員が行うことで、他の意見を参考にして、自分の考えを深める。

(7) 事後の指導と生徒の活動

ア 将来の夢を実現するために、自己評価カードや個別面談等で今やるべきことを指導していく。

イ 授業の様子や生徒の感想を学級通信で保護者や職場の訪問先に紹介するとともに、協力いただいた職場の方に感謝の気持ちを伝える。

2 生徒会活動の指導計画

(1) 自発的・自治的に活動する態度や能力の育成をめざした生徒総会の指導計画例【資料7】

ア ねらい

- (ア) 生徒会活動の意義を学び、生徒会の一員として、主体的に活動していくことの重要性を理解させることにより、自発的、自治的な態度を育てる。
- (イ) 年間の見通しをもち、生徒会活動を意欲的に展開していこうとする態度を育てる。
- (ウ) 議案の作り方、議事の進め方を身に付けさせる。

ねらいの明確化

- 生徒総会のねらいを明確にする
- 主体的に活動していくことの意義の重要性をここで十分に理解させることによって、各生徒の自発的、自治的な活動が活発になる。

取組を活性化させるポイント

- 生徒会の組織について、年度当初の職員会議で全教職員の共通理解を図る
- ↓
- その後の生徒会活動の取組が活性化する。

イ 生徒会の組織

①生徒総会	全校生徒による生徒会の最高審議機関。
②生徒評議会	生徒総会に次ぐ審議機関。以下にあげる③及び④⑤⑥の代表者により構成される組織。
③生徒会役員会	生徒会の様々な取り組みの推進的な役割を担う。
④各種委員会	<例>学級委員会・保健委員会・給食委員会等。
⑤学級	
⑥部長会（部活動代表）	

生徒会組織への徹底

- ねらいはこの組織のすべての成員に周知し、「何のため」の活動なのかを明確にする

ウ 活動内容

(ア) 事前の活動

	活動の内容	指導上の留意点
① ○月○日 放課後 生徒会役員会	○生徒総会実施計画案の作成 ・ねらい ・日時 ・場所 ・議案の内容 ・事前準備の内容 ・当日までの日程 等 ○生徒評議会の運営の確認 ・進行手順・事前準備の内容 ・役割分担 等	◎ここでは、生徒会担当教諭が指導・支援する。 ◎ねらいを明確に示して、生徒会長を中心に自主的な話し合いを行わせる。 ◎「生徒総会」に向けて、生徒評議会の運営を生徒会本部役員が自主的に進行できるように議長の生徒への打ち合わせを綿密に行う。
② ○月○日 放課後 生徒評議会	○生徒総会実施計画の審議 ○議案書の作成と分担確認 ○各種委員会、各学級、部長会の事前の取組についての確認	◎生徒会担当教諭が適切な指導・支援を行いながら、総会を進行させるようにする。 ◎「生徒総会」の議案書の審議、事前や事後の活動を行う。
③ ○月○日 放課後 各種委員会 部長会	○昨年度の活動を踏まえた本年度の活動目標・計画及び予算案の作成	生徒評議会の機能を活かした生徒会活動の活性化 ○学級や各種委員会から出される諸課題の解決、学級活動や部活動に関する連絡調整を行う ○各種委員会担当教諭や学級担任、部活動担当教諭との連絡を密にし、月一回程度の定例会を計画的に実施する→年間を通じて生徒会活動の活性化を図る。
④ ○月○日 放課後 生徒会役員会	○生徒総会議案書の作成と印刷 ○生徒評議会の運営の確認	◎「生徒総会」が自分たちの学校生活を向上させ、○○中学校の伝統を作り上げていく場であることを意識させ、学級活動の内容と進行手順について、学級活動の代表生徒に十分に理解できるように、生徒会担当教諭が指導・支援する。
⑤ ○月○日 放課後 生徒評議会	○生徒総会議案書の綴じ込みと配布 ○学級活動の内容確認と進行手順の確認	

道徳的実践・言語活動に関するポイント

- よりよい生活をつくるために協力して参画していく態度を身に付けさせる
- 自分自身の考えを各生徒が発表できるように教師が指導・助言する。

⑥ ○月○日 学級活動 学級全体	○生徒会活動の意義の確認 ○議案書の読み合わせと質疑事項の話し合い ○生徒総会に向けた個人目標の決定	◎生徒会担当教諭は学年主任、学級担任との打ち合わせを十分に行い、議案書は一人一冊用意し、話し合い活動が活発に行われるように指導・支援の体制づくりを図る。 ◎生徒総会で大切なことは、自分の意志をもって参加することであり、自分の意志をその場で示すことが大切であることを指導助言し、生徒総会当日に臨めるようにする。
⑦ ○月○日 放課後 生徒会役員会	○質問、意見の集約と検討及び回答者への振り分け ○リハーサルについての確認 ○事前準備と生徒総会運営の確認	◎生徒会担当・各種委員会担当・部活動担当教諭は、質問・意見の回答について、誠意ある対応ができるように、回答の内容に関する指導・助言もていねいに行う。
⑧ ○月○日 放課後 生徒評議会	○質問、意見の回答者への振り分け ○リハーサルについての確認	<p>生徒主体の生徒総会を実施するポイント</p> <p>◎事前指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ○議事進行・質問内容等の確認 ○質疑応答の仕方の確認 ○簡単なシナリオの準備・流れの確認
⑨ ○月○日 放課後 生徒評議会	○リハーサル<体育館>	

(イ) 本時の活動 (生徒総会次第)

- ① 開会のことば
- ② 校歌斉唱
- ③ 生徒会長あいさつ
- ④ 議長選出
 - 第1号議案『前年度の活動報告』(生徒会役員)
 - 第2号議案『本年度の事業計画』(生徒会役員)
 - 第3号議案『本年度の各専門委員会年間活動計画』(各専門委員長)
 - 第4号議案『本年度の各部活動年間活動計画』(各部長)
 - 第5号議案
 - ①『前年度の決算報告』(生徒会役員)
 - ②『本年度の予算案』(生徒会役員)
- ⑤ 議長解任
- ⑥ ○○先生の話
- ⑦ 閉会の言葉

生徒会活動の活性化のポイント

- 1年間を通して生徒会としての活動テーマを設定し、そのテーマを達成するための活動を行う。
 - テーマにそった各種委員会や学校行事の実践化を図る。
- <テーマ例>「居心地のよい学校」
- ・○○月間や△△キャンペーン

事前・当日の指導のポイント

- <事前>
- 生徒会担当教師を中心に全教職員が共通理解し、指導に当たる。(職員会議での徹底)
- <当日>
- 生徒総会は生徒会の最高審議機関であること、生徒会は学校を動かす、学校をよりよい方向に変えることができることを生徒会長や教師の話を通して伝える。
 - 教師の適切な指導の下での活動であることを教師側が常に意識しておく。

生徒の自発的、自治的な活動の意欲を高める指導のポイント

- 総会の中で答えきれなかった質問・意見についての回答を生徒会だよりに掲載し、全校生徒に知らせる。
- 役員が反省と評価をし、教師が適切な評価を与える。
- 各学級で反省とまとめを行い、生徒会の一員としての自覚を促し、生徒の活動を教師が支援していく。
- 生徒会担当教師と各種委員会担当・部活動担当教師との連絡を総会以後も計画的・継続的に行う。

(ウ) 事後の活動

活動の主体	活動の内容
生徒評議会	○反省と評価
生徒会役員会	○生徒会だよりの発行 ○反省と評価
各種委員会 部長会	○決定した計画に沿った活動
学級	○反省と生徒会の一員としての活動

Ⅱ 評価の観点

- ・生徒会活動の意義を学び、生徒会の一員として、自発的、自治的に活動している。
- ・年間の見通しをもち、生徒会活動を意欲的に展開していこうとしている。
- ・議案の作り方、議事の進め方を身に付けている。

(2) 各種の委員会の指導計画例 「広報委員会による新聞発行指導計画」の例【資料8】

ア ねらい

- (ア) 広報委員会が発行する新聞の企画・取材・原稿書き・編集等の自発的、自治的な活動を通し、異年齢の生徒間も含めた人間関係を築き、協力して最後までやり遂げる能力の伸長を図る。
- (イ) 広報活動を通し、学校生活を向上させていこうとする意識をはぐくみ、自発的、自治的に活動する態度や能力を育てる。

イ 活動計画

月	活動内容	
4月	委員長等役員の決定、年間計画作成、新聞発行担当グループの編成、グループごとに編集長の決定、新聞発行までの流れの確認、取材の仕方、記事の書き方、編集の仕方等の確認	
5月	第1号発行 (Aグループ)	活動計画を立てる上でのポイント ○「委員会の日」は、前月の活動の評価と反省を基に、今後の活動に生かすための話し合いを主な活動として位置付ける。 ○日常的な活動を委員会の具体的な活動の中心に位置付ける。 ○異年齢からなる縦割りのグループを編成して、具体的な活動の計画を立てる。 ○生徒にとって過度の負担にならないように計画を立てる。
6月	第1号の反省 第2号発行 (Bグループ)	
7月	第2号の反省 第3号発行 (Aグループ)	
2月	第8号の反省 第9号発行 (Aグループ)	
3月	第9号の反省 第10号発行 (Bグループ)	1年間の活動の反省と来年度の活動に向けて

ウ 活動内容

(ア) 具体的な活動に備えての活動と留意点

活動の種類	活動の内容	指導上の留意点
全体会議	記事の書き方、インタビューの仕方等、活動の内容とその方法を理解する。	・これからの1年間、具体的にどのような活動をしていくのか、全員に理解させる。
全体会議	記事の打ち込み方、写真の取り込み方、編集の仕方等、パソコンの基本的な操作方法を理解する。	・3年生は、1、2年生への指導的立場になるので、操作方法について十分に理解させる。
全体会議	活動のグループを編成し、グループごとに編集長を決定する。	・3年生が1、2年生に対して指導的立場となって活動できるような縦割りグループを編成する。
全体会議	年間を通して想定される特集記事や大きな記事を確認し合う。	・記事が行事の紹介だけに留まらず、学校生活のあり方などについて投げかける内容にも踏み込ませたい
グループ長会議	各号でどんな記事を扱うのか、大まかに分担する。	・年間を通してシリーズで扱う記事の設定については、委員全体で十分な話し合いをして決定する。

自発的・自治的な活動にするために、年度当初に確認しておきたいポイント

- 委員長等役員に適切な指導をした上で、委員長を中心に話し合いを行い、それに基づいた活動をする。
- 委員会全体、グループ、個人として具体的にどんな活動をするのがよいかを理解した上での活動とする。
- 3年生が1、2年生に対して指導的立場となって活動できるような縦割りグループを編成して活動する。
- 生徒総会を受け、各委員会・学級の活動と関連させた学校生活の向上を目指す活動とする。

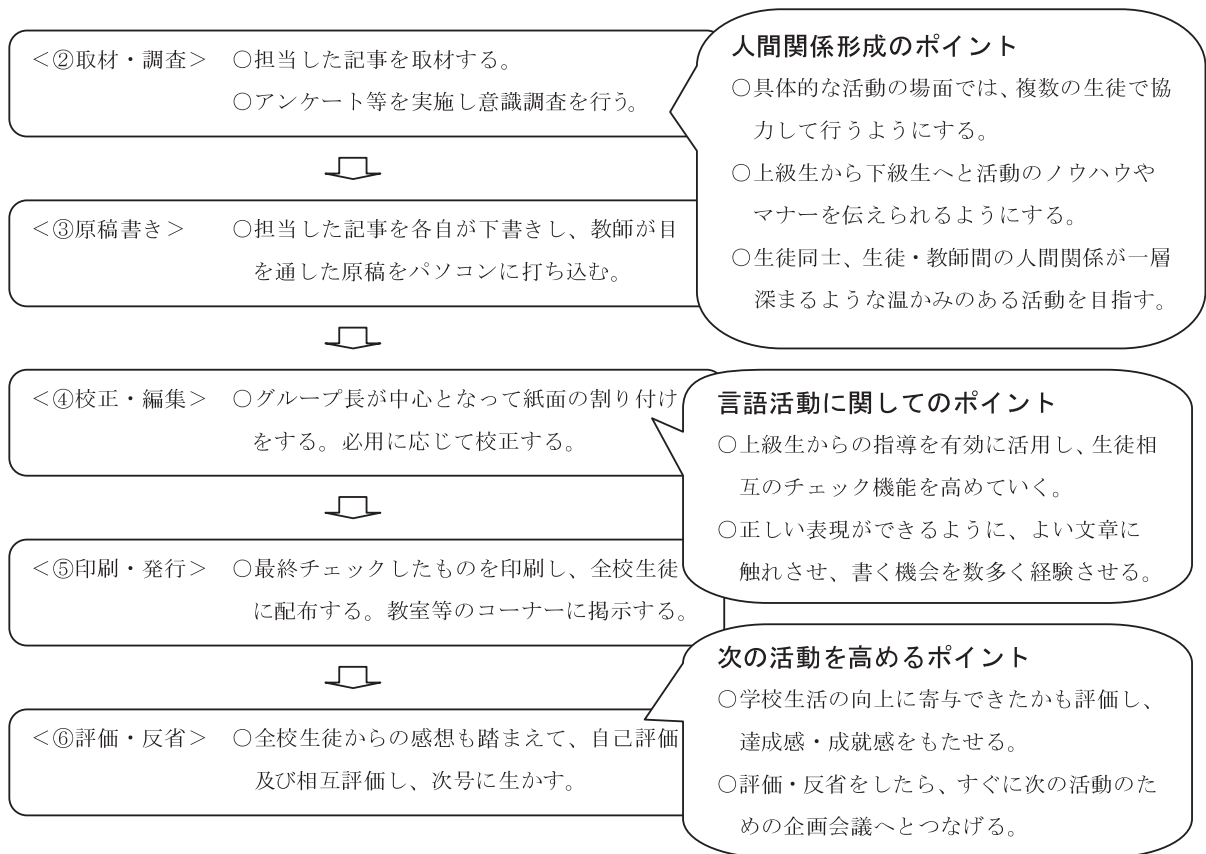
(イ) 定例で行う具体的な活動

<①企画会議> ○グループ長を中心に、扱う記事の内容と担当者、及び大まかな行数を決定する。

活動意欲を高めるためのポイント

- 活動可能な範囲を確認し、その中で興味・関心のある「やってみたい活動」を尊重する。





(ウ) 想定される記事の例

学校行事等に関して	学級・生徒会活動等に関して	学校生活向上のための問題提起等
入学おめでとう 新しい先生方紹介 歴史に学んだ ―修学旅行― 深まった絆 ―宿泊学習― 燃えた！体育祭 盛り上がった！文化祭 全員完走！ 校内ロードレース大会 見事なハーモニー！合唱祭 貴重な〇日間 職場体験 卒業おめでとう	シリーズ 学級紹介 シリーズ 部活動紹介 大会結果紹介 各委員長にインタビュー 生徒総会を成功させよう 今年度の活動方針決まる―生徒総会 新生徒会役員にインタビュー 盛り上げよう、クリーン活動 読書のすすめ 図書委員長語る 心に残った！ 涙の三送会	していますか？ あいさつ 授業態度を見直そう！ もっと清掃に力を入れよう！ 〇〇中生としての誇りをもとう どう過ごしますか？ 夏休み 親友ってなんだろう インフルエンザにかからないために シリーズ 学校に咲いている花 シリーズ 高校訪問 シリーズ 〇〇先生の中学生時代

(エ) 年間の活動を振り返っての評価

- ① 望ましい人間関係を築き、最後まで協力して活動している。
- ② 学校生活を向上させていこうとする意欲をはぐくみ、自発的、自治的に活動している。
- ③ 各学級や生徒会活動、学校行事、部活動等、生徒の活動の一層の活性化を図ることに寄与している。

Ⅱ 指導効果を高める工夫

(ア) 活動の時間について

- ① 「委員会の日」の時間は、それまでの活動を評価及び今後の活動に向けての打ち合わせなどの活動に充てる。
- ② グループでの活動は、事前の連絡・調整をした上で、昼休みや放課後に時間を見つけて手際よく効率的に進める。

(イ) 活動の場面について

- ① 学級や他の委員会と関連ある活動や、校外で活動を行う場合には安全指導も含め、教師が適切な指導を行う。
- ② 委員としての自覚を高めるため、活動の際には腕章やネームタグを着用すると効果的である。

3 学校行事の指導計画

(1) 文化的行事「文化祭の指導計画」の例（〇〇中祭）【資料9】

各校の実態（校風、伝統、文化）に応じた特色あるネーミングもよい。

ア ねらい

- (ア) 日ごろの学習や活動の成果を総合的に発展させ、発表し合い、互いに鑑賞することで、自他のよさを見つけ合う喜びを感じるとともに、自己の成長を振り返り、自己を一層伸ばさせようとする向上の意欲を高める。
- (イ) 学級や学年で協力し合い、文化を創り上げる喜びを味わわせ、それを発表する能力を育てるとともに、鑑賞する態度を養う。
- (ウ) 「地域ふれあい講座」等を通して、地域の方との交流を深め、伝統文化を知ることができるようにする。

生徒主体の活動

生徒を主体として活動を行うことは、学校行事すべてに重要である。特に生徒の学習成果の発表である文化的行事は、教師の適切な指導の下、可能な限り生徒の企画に基づいて行うことに努める。

イ 実施計画

- (ア) 期日 平成〇〇年〇月〇〇日（〇曜日）第1～6校時 (イ)場所 本校（校舎、体育館、中庭、グラウンド）
- (ウ) 参加学年 全学年（全校生徒、学年、学級、各教科、生徒会各種の委員会、文化部を中心とした部活動、個人）

ウ 活動内容と方法

- (ア) 活動内容等 ～生徒の文化活動の発表、地域の方によるふれあい講座、学校と家庭・地域との交流活動～

対象	発表形態	発表の具体例（発表者・発表内容）
生徒	ステージ	全校合唱、学年合唱、学級合唱、国語科（作文・弁論）、音楽科（合唱・器楽）、英語科（スピーチ）、文化部（合唱部、吹奏楽部、箏曲部、演劇部）、個人（グループ）の趣味・特技
	作品展示、体験活動、プレゼン等	全教科・総合的な学習の時間の研究レポート、生徒会各種の委員会による取組、国語科（短歌・俳句・書道）、美術科（絵画、彫刻、デザイン、工芸）、技術・家庭科（発明・創意工夫作品）、文化部（書道部、茶道部、華道部、科学部、美術部、パソコン部）、個人の趣味・特技
教師	ステージ	全教師による取組（合唱等）、専門性を有する教師・保護者・地域住民の発表（音楽、舞踊等）
家庭	作品展示等	専門性を有する教師・保護者・地域住民の発表（手芸、華道、書画、クラフト等）
地域	講座	地域の専門家による生徒・教師・保護者・地域住民を受講生とした講座

家庭・地域との連携
家庭や地域との連携の視点を重視する。

(イ) 事前の指導と生徒の活動

期日	主な活動の内容	生徒の活動	実行委員会	家庭・地域との連携	指導上の留意点
〇月	1 行事の説明 2 発表内容の検討・決定	○説明を聞き、行事について理解する。 ○各教科、各学級・学年、生徒会、各部活動、生徒個人など、それぞれの単位で発表内容を考える。	○説明を受け、実行委員を選出する。 ○実行委員会を発足する。（委員長、副委員長、係分担） ○今年度のテーマや内容を検討し決定する。	○担当者を通じてPTA、学校応援団に協力を要請する。 ○役員等で検討会を開き、参加内容を決定する。	○実行委員会を早い時期に組織して全体計画（準備期間、日程、内容、予算）を立てる。 ○教師の適切な指導の下、できる限り生徒を主体として企画・運営を行うとともに、家庭や地域に協力を要請し参加・参画を促していく。
〇月	3 準備期間	○各発表団体ごとに発表内容（練習、制作等）の準備を行う。 ○前日にステージのリハーサルと会場設営を行う。	○運営の中心となって、準備に関する詳細について連絡・調整を行う。 ○リハーサル、会場設営を進行する。	○担当者を介して特別活動部や実行委員会、生徒会とともに発表の準備を行う。	○発表団体ごとに担当者が指導に当たり、当日までの計画に沿って準備を行う。 ○特別活動部と実行委員会が中心となって連絡調整に当たる。

(ウ) 当日の活動

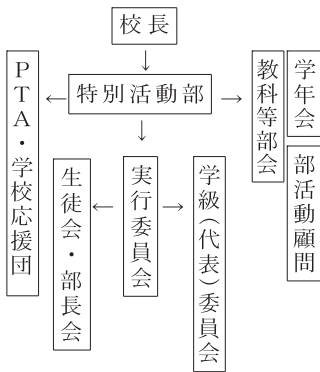
	日程	活動場所	担当教師	活動内容	指導上の留意点
開会行事	8:30 開会行事	体育館	教務部 特別活動部	1 はじめの言葉 2 校長の話 3 実行委員長の話 4 担当教師からの連絡等 5 おわりの言葉	※地域住民に一日学校を公開する。 ○実行委員会がプログラムを進行する。（司会、誘導、舞台装置等） ○放送委員会等、生徒会の各種の委員会に活動の機会を与える。
発表	9:00 第1部 ステージ発表	体育館	特別活動部 各教科部会 PTA 担当 部活動顧問	1 合唱（学級、学年、全校）発表 2 教科等（授業）の成果発表 3 教師・保護者・地域の方の発表 4 文化部（音楽・演劇系）の発表	○実行委員会がプログラムを進行する。（司会、誘導、舞台装置等） ○特別活動部と各発表の担当教師で連携して実行委員、発表者を導き、スムーズな発表の流れをつくる。

	11:30 第2部 展示等発表	校内各所	特別活動部 各教科部会 PTA 担当 委員会担当 部活動顧問	※各発表団体の計画によって、代表者が進行する。 ・教科等（授業）の成果発表 ・生徒会各種の委員会の取組 ・教師・保護者・地域の方の発表 ・文化部（作品、体験）の発表	○事前に申請した場所で発表する。 ○プログラム中の発表場所の案内図を参考に、生徒・保護者・地域住民が参加し、交流を深める。 ○各発表の担当教師は発表の指導、他の教師は巡回指導に当たる。
講座	13:30 第3部 地域ふれあい 講座	校内各所	特別活動部 PTA 担当 学校応援団 担当	※各講座に担当教師と実行委員を付けて進行する。 1 講師紹介 2 講師あいさつ 3 講座（講義・演習・実習など）	○講師は、教師、保護者、地域住民から学校が要請した人材とする。 ○受講生は、生徒、保護者、地域住民から事前に希望を取って決定して各講座の名簿を作成しておく。
閉会行事	15:00 閉会行事	体育館	教務部 特別活動部	1 はじめの言葉 2 指導・講評（校長） 3 実行委員長の話 4 担当教師からの連絡等 5 おわりの言葉	○実行委員会がプログラムを進行する。 体験活動・言語活動の充実 学校行事の実施に当たっての配慮事項として、体験活動や言語活動の充実を図る観点から、体験活動を通して気付いたことを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫する。

(エ) 事後の指導と生徒の活動

期日	主な活動の内容	生徒の活動	実行委員会	家庭・地域との連携	指導上の留意点
○月	1 行事のまとめ 2 教師の評価	○各発表団体ごとに行事を振り返り、自己評価と他者の発表の感想等をまとめる。	○反省会を開き、実行委員会としての評価を行い、まとめる。	○担当者を通じて反省会を開催し、今後の連携のあり方を考える。	○生徒に評価カードを配布して文章でまとめさせる。 ○発表団体の指導を行った教師が評価を行う。

工 組織



評価カード例

文化祭評価カード 生徒氏名 _____

所属 学級 _____ 年 組 _____
生徒会 _____ 部 _____

平成〇〇年度 文化祭テーマ _____

1 目標
文化祭のテーマは上のおりに実行委員会が決定しました。先生方から聞いた文化祭の目標や今年度のテーマを受け止めて、あなた自身の目標を考えてみましょう。
文化祭における私の目標 _____

2 役割と責任
文化祭での自分の役割を確認し、その責任を考えてみましょう。
文化祭における私の役割と責任

活動	所属	役割	活動内容
学級活動	年 組		
生徒会活動	委員		
部活動	部		

3 取組と評価
(1) 取組の経過

日付	曜	取組内容	日付	曜	取組内容
〇〇月			〇〇月		
〇〇火			〇〇火		
〇〇水			〇〇水		
〇〇木			〇〇木		
〇〇金			〇〇金		文化祭当日

(2) 自己評価 印記入 AできたーB→でできなかったD

	評価の観点	評価
事前	1 係分担や役割分担を理解して行動した。	ABCD
	2 活動内容と手順を理解して行動できた。	ABCD
	3 協力して準備に取り組むことができた。	ABCD
当日	4 発表を精一杯行うことができた。	ABCD
	5 取組は文化祭にふさわしかった。	ABCD
事後	6 発表を真剣に鑑賞することができた。	ABCD
	7 後片付け・後始末をしっかりとできた。	ABCD
	8 文化祭の目標が達成できた。	ABCD

4 文化祭の感想
(1) 自分の発表について 目標の達成度…ABCD
.....
(2) 他の人の発表について
.....

担当者	学級担任	生徒会担当	部活動顧問
印			

オ 実施上の配慮事項

- (ア) 学級、学年の企画は、事前に望ましい企画の基準を示し、安易な方向に流れないように指導する。
- (イ) 「地域ふれあい講座」等には、実行委員だけでなく教師も分担して担当し、十分な指導の下に企画、運営する。

カ 役割分担

分担	担当部門	担当教師
企画運営	全体計画を立案し、行事全体の企画運営を行い、連絡調整の上、活動を推進していく。	〇〇、〇〇
実行委員会	実行委員会を指導・援助し、生徒が主体的に活動できるようにする。	〇〇、〇〇
ステージ発表	ステージ発表の進行(事前の準備・リハーサル、当日の司会、舞台装置、誘導)を担当する。	〇〇、〇〇
展示発表	展示発表の進行(事前の準備、展示・体験活動・プレゼンのルールづくり等)を担当する。	〇〇、〇〇
地域ふれあい講座	講座の進行(地域の講師招聘、受講者の決定、内容ごとの準備)を担当する。	〇〇、〇〇
教科発表	教科会を通じて、ステージ・展示発表のうち、教科の学習の成果発表の指導を行う。	〇〇、〇〇
生徒会発表	ステージ発表、展示発表のうち、生徒会組織(各種の委員会など)の取組を指導する。	〇〇、〇〇
部活動発表	ステージ発表、展示発表のうち、部活動を単位とした発表を指導する。	〇〇、〇〇
家庭・地域連携	家庭や地域に向け文化祭の広報を行い、保護者や地域の方の発表を募集し、サポートする。	〇〇、〇〇

キ 評価の観点

- (ア) 日ごろの学習や活動の成果の発表とその鑑賞から、自他のよさを発見し、自己を一層伸長させようとする。
- (イ) 学級や学年で協力し合い、文化を創り上げる喜びを味わい、積極的に発表し鑑賞する態度をもつことができる。
- (ウ) 「地域ふれあい講座」等を通して、地域の方との交流を深め、伝統文化を知ることができる。

※ 本事例における指導効果を高める工夫

- 1 学級担任と生徒会活動や部活動の担当者との連絡を密にし、事前～当日～事後に至るまで複数教師の目で個々の生徒の活動状況を見守り、生徒に声を掛けていく体制を構築する。(複数教師での評価カードの活用など)
- 2 教師・保護者・地域の方の発表や地域ふれあい講座等の企画運営に、PTAや学校応援団を参画させることにより、学校・家庭・地域の三者が一体となった行事の創生が可能である。(当日を学校公開日に充てるなど)

※ 「学芸的行事」が「文化的行事」に改められた観点

学習指導要領では、名称が「学芸的行事」から「文化的行事」に変わり、本物の文化や芸術に触れたり鑑賞したりする活動、文化の継承に寄与する活動の充実が強調されている。活動内容例としては次のものが考えられる。

- 1 生徒自身の活動とその鑑賞に関するもの(授業での学習、学年・学級単位での取組、生徒会や部活動の取組など)
 - 2 生徒自身の活動ではなく、鑑賞のみに関するもの(学校外から専門家を招いての芸術鑑賞、講演、講座など)
- 本事例では、(ア)については生徒によるステージ・展示発表等、(イ)については専門性を有する教師・保護者・地域住民の発表と地域ふれあい講座という形で文化祭の事例を取り上げている。

(2) 勤労生産・奉仕的行事「職場体験学習の指導計画」の例【資料10】

ア ねらい

- (ア) 働く人々の様子を見聞きしたり、実際に体験することを通して、働く意義を考え、今後の生活、進路学習に生かしていく。
- (イ) 生徒自ら課題を見付け、計画・実行することによって、問題の解決や探求活動に主体的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができ
- (ウ) 体験的な学習を通じて、社会へ

組織的な指導計画の作成

指導計画については、特別活動主任を中心とした特別活動部と進路指導主事を中心とした進路指導部及び当該学年主任、PTA担当者、地域連携担当者等と十分に話し合い、内容を吟味して作成する。

学習指導要領解説特別活動編における5日間の例示

学習指導要領では、学校の実態や生徒の発達の段階を考慮しつつ、一定期間(例えば、1週間(5日間)程度)にわたって行われることが望まれるとしている。

イ 実施計画

- (ア) 期日 平成〇〇年〇月〇日(〇曜日)～〇日(〇曜日) 合計 〇日間(事前打合せ1日、発表会1日を含む)
- (イ) 場所 地域の商店や事業所〇〇か所(別記) ◇参加学年 第1学年 〇〇〇名(男子〇〇名、女子〇〇名)

ウ 活動内容与方法

(ア) 活動内容等

生徒の実態・希望に基づいた体験

職場体験学習は、学校教育全体として行うキャリア教育の一環として位置付ける啓発的な体験活動である。事前に生徒の実態を十分に把握し、希望に基づいた職場での体験をさせることにより、意欲的な活動となるようにする。

種別	事業所名	責任者名	所在地	電話番号	担当教師	受入人数	条件等
小売業	〇〇商店	〇〇〇〇	中央△丁目△番△号	△△△-△△△△	〇〇〇〇	△人	
製造販売	〇〇会社	〇〇〇〇	〇〇△△番地	△△△-△△△△	〇〇〇〇	△人	

(イ) 事前の指導と生徒の活動

月	学年教師	実行委員会	生徒	学年PTA	家庭
〇月	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験学習説明会 ○啓発資料作成・配布 ○体験先(事業所)希望調査 ○事業所等決定 ○受け入れ依頼と確認 ○グループ編成の人数調整や事業所への連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験学習説明会の司会進行等 ○体験先(事業所)希望調査への協力 ○受け入れ事業所等選択への協力 ○グループ編成 ○グループ編成の人数調整の協力 	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験学習説明会 ○体験先(事業所)希望アンケート調査 ○グループ顔合わせと役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導についての共通理解と啓発と資料作成への協力 ○事業所等選定のための情報提供(場所、事業規模、事業内容等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○啓発資料による生徒と保護者の話し合い(生徒の将来の希望や長所、特技などについて)
〇月	<ul style="list-style-type: none"> ○各事業所担当教師による事前指導 ○直前指導(安全指導等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○見学時の質問項目等の例示 ○直前学習会での司会進行 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業所等との事前打合せ(第1日) ○事前学習(質問事項の確認等) ○直前学習会 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭での話し合いの資料作成への協力「働く人々」 ○直前学習会における講話 	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験当日に向けての生徒への指導・助言(社会人としての心構え等)

事前の指導

事前に事業所の方との接し方、電話連絡や打合せの進め方について学級活動等で指導しておく。

(ウ) 当日の活動 —仕事・職業についての取材や体験—

時間	活動内容	指導上の留意点
8:25	◎学校集合 ～点呼、健康観察等～ 開会行事（司会：実行委員）	○体育館に集合し、グループ（事業所）ごとに整列する。 ○生徒の健康状態等を観察し、欠席は事業所に連絡する。
8:30	1 はじめの言葉 4 実施上の注意事項 2 校長先生の話 5 おわりの言葉 3 実行委員長の話	○規律ある中にも和やかな雰囲気で開催する。 ○活動意欲を高める内容になるよう事前に指導する。 ○事業所ごとの服装や持ち物、マナー、安全等を確認する。
8:40	各事業所へ出発	○交通安全に注意し、移動できるようにする。
9:00	事業所着、活動開始 ○あいさつ・自己紹介（初日） ○職場の方へのインタビュー （仕事の内容、適正及び必要とされる資格、喜びを感じる瞬間など） ○職場の見学・体験	○自転車を使用する場合は、所定の置場に整頓して置く。 ○事業所の方にしっかりとあいさつができるようにする。 ○事前に考えた質問事項について伺い、メモを取る。 ○取材した内容は、事後の活動でのまとめや発表に生かす資料とする。
12:00	○昼食	○事業所の方の指示に従って活動する。 ○事前の打合せに従って昼食をとる。
13:00	○職場の見学・体験	○教師は各事業所を巡回して活動状況を見守る。
15:00	活動終了、事業所発 ○お礼・あいさつ	○事業所の方に体験のお礼・あいさつをして学校に戻る。 ※最終日は、3日間のお礼を一人一人が言えるようにする。
15:20	◎学校帰着 ～点呼、本日の活動報告等～ ○活動報告書（本日分）のまとめ 閉会行事 1 はじめの言葉 3 指導講評 2 副実行委員長の話 4 おわりの言葉	○報告を受け、激励するとともに、本日分の報告書のまとめについて指導する。 ○互いの努力を認め合う雰囲気をつくるようにする。 ○賞賛、助言、今後の生活への展望等を話し、事後の活動へとつなげていく。

(エ) 事後の指導と生徒の活動

月	学年教師	実行委員会	生徒	学年PTA	家庭
○月	○職場体験報告書の作成説明 ○職場体験発表会についての指導（発表指導）	○職場体験報告書の作成協力 ○職場体験発表会の計画と準備（進行等）	○職場体験報告書の作成（グループ） ○職場体験発表プレゼンテーションの計画と練習（グループ）	○家庭での話合いの資料作成への協力「働く人々」	○職場体験学習を終えての生徒と保護者の話合い（体験活動の報告と保護者の助言）
	○職場体験発表会（司会：実行委員） 1 はじめの言葉 4 職場体験発表 2 校長先生の話 5 指導講評 3 実行委員長の話 6 おわりの言葉			○発表会における講話	○発表会の参観

体験活動・言語活動の充実
 体験活動や言語活動の充実を図る観点から、職場体験発表会の設定を事例として掲げた。体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫する。学年でも学級でも設定が可能である。

Ⅰ 実施上の配慮事項

- (ア) 仲間と協調し、互いを認め合うためにも、1グループの編成人数は、4～6名とする。
- (イ) 受け入れの依頼や生徒の事前打合せのお願いについて、各事業所とは事前に連絡を取っておく。また、訪問の際の中学生に夢を与える助言や安全についての配慮事項を伺っておく。訪問後には活動報告書（感想文や写真）などとともにお礼の手紙を送付する。

オ 役割分担

係分担	仕事内容	担当教師
企画運営	実施計画作成や資料作成など、活動を推進する。	○○○○
総務	実行委員会指導、グループ編成、集会運営を行う。	○○○○
渉外	事業所との連絡・調整を行う。	○○○○
学年PTA	訪問受け入れ先の選定、保護者の協力要請を行う。	○○○○
各事業所担当	事業所別の詳細の連絡・調整、生徒の指導を行う。	○○○○
安全	学校～事業所の交通手段・経路・安全の指導を行う。	○○○○
活動報告書	報告書、発表資料をまとめ、冊子の作成を行う。	○○○○

報告書の例

職場体験報告書
 年 組 氏名○○○○ 保護者○○○○
 事業所（体験先）□□□□□商店
 自己評価

1	仲間との協力	A	B	C	D
2	自主的な活動	A	B	C	D
3	あいさつ・返事	A	B	C	D
4	言葉遣い	A	B	C	D
5	身だしなみ	A	B	C	D
6	安全な行動	A	B	C	D

見学・体験しての感想
 うれしかったこと.....
 印象に残ったこと.....
 今後の生活で努力したいこと.....

保護者からのアドバイス

 担任から

